

早稲田大学 2025年 活動紹介

福島県津島地区の里山から 日本の未来を考える



早稲田大学
文化構想学部 4年

柳百香

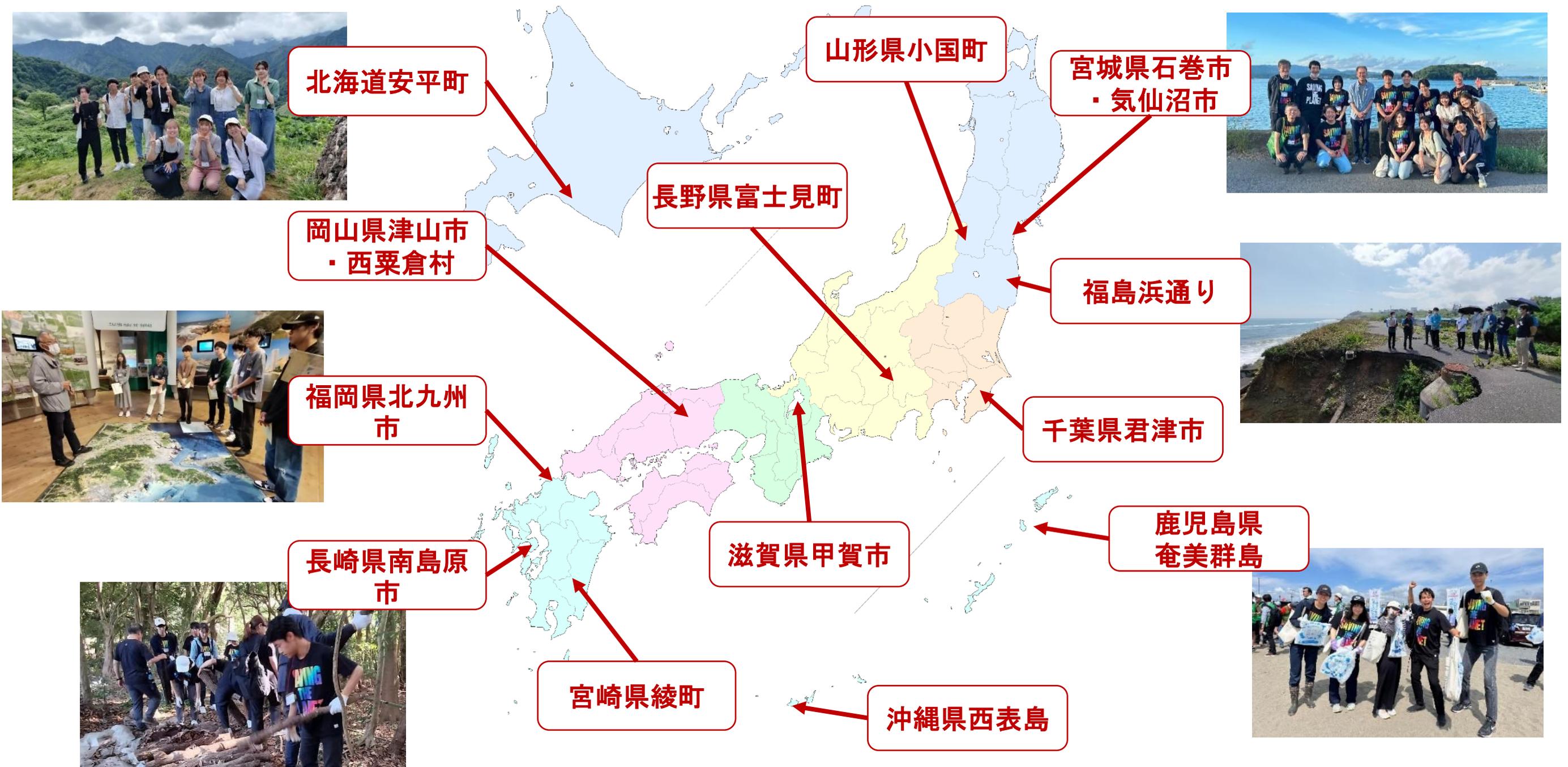


早稲田大学 **AEONTOWA** リサーチセンター



全国に広がる学びのフィールド：

AEON TOWAの里山実践 ～環境財団とともに～



わたしたちは地域の現場に入って理想の地域社会像を
追い求める過程でさまざまな体験をしています

福島県津島地区

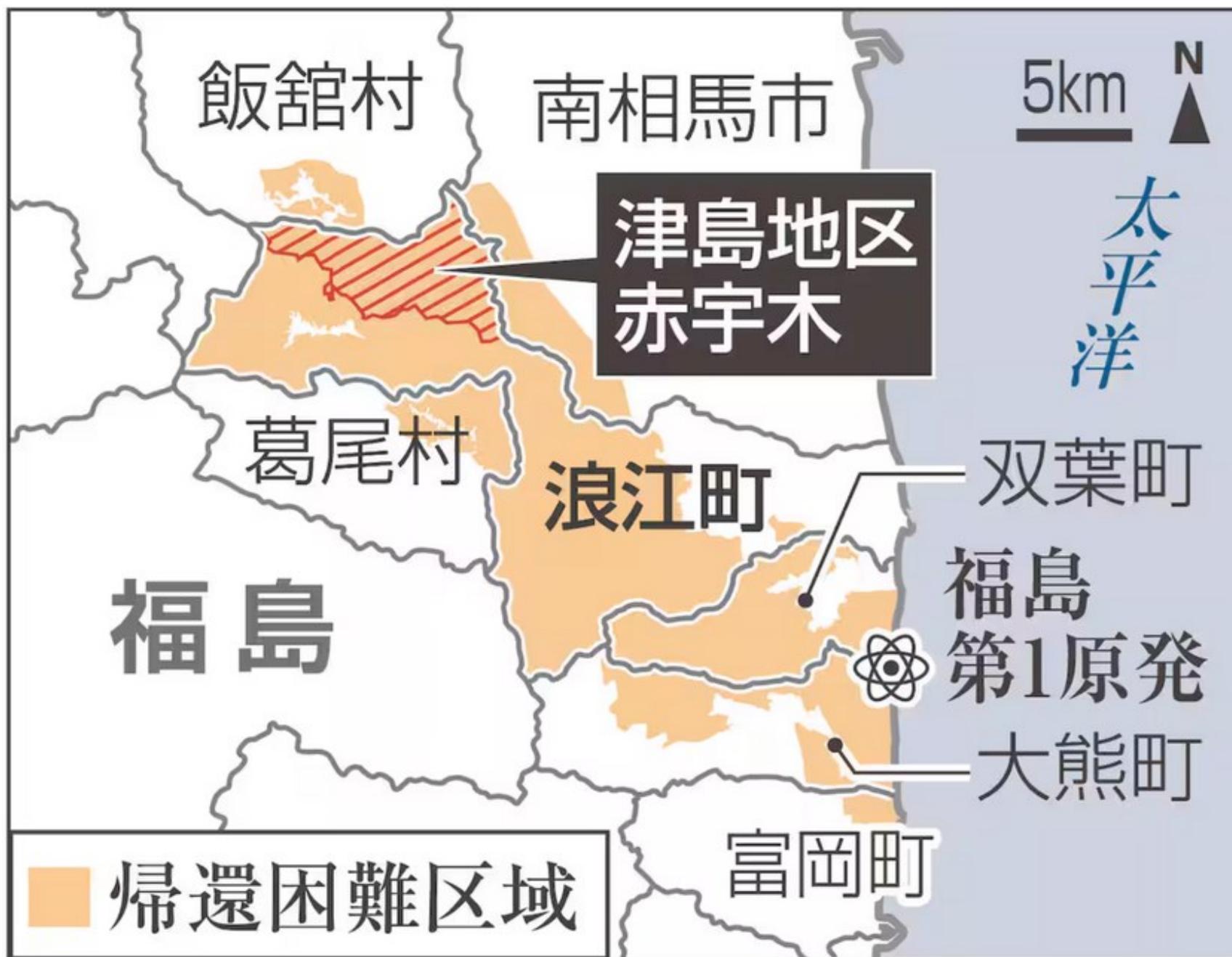


Toshikuni Doi (2024)

福島県浪江町の西側に位置
山間部の集落



福島県津島地区



産経新聞 (2025)

現在も地区の大半が帰還困難区域に指定

● 津島地区での取り組み：住民主体の場の創出

住民参加型環境アセスメント



対話の場



● 住民と協働で行う環境アセスメント



行政主導ではなく、住民が計画段階から関与し共に活動
一方通行でない双方向の取り組み

透明性 情報 信頼関係 など



● 対話の場を「自分たちで」創る①



- ・ やんわりとした空気感なら、地域の方がこれまで話してこなかったことを話し合える？
- ・ 話し合いにおけるルールを決める 否定しない、割り込まない、質疑応答の場ではない
※哲学対話
- ・ 地域の人が求めていることは何か 言語化されていない
- ・ 参加者数（あまり多くない方が話しやすい）や参加の形
この人のこの意見の続き知りたい！みたいなことができる形
絵本の読み聞かせを聞くみたいなそういう空気感
地域の人と一緒に何か作業を行う
作業：放射線測定とかは固すぎる、特産品を作るとか、何か絵を描く作るとか
互いの想いをマッチングさせる（高校生とかなら意見集めやすいかも）
- ・ 場所（会議室みたいな空気感じゃなくて、地域の人が）

「話し合いのルール」に関するメモ書き

目的：住民の方々の「美化されていない想い」を伺うこと

工夫①：「よそ者」としての視点を活かし、正直な疑問を投げかける

工夫②：一方的に話を聞くのではなく、学生も自分の考えを話す「対等な立場」を大切にする

工夫③：「主張を聞き出す場にはしたくない」。だからこそ、アイスブレイクから場の雰囲気づくりを徹底

● 対話の場を「自分たちで」創る②



STEP 1

仲間と議論

- 住民一人ひとりの「美化されていない津島への想い」を共有する場を目指すことを確認。
- 単なる「主張を聞き出す場」ではなく、共に考える場にするとする課題意識を共有。



STEP 2

ルール設計

- 専門家でも住民でもない「よそ者」としての視点を活かし、正直な問いを投げかける役割を定義。
- 学生も考えを話すことで「対等な立場」を築き、本音を話せる雰囲気づくりを最優先。



STEP 3

当日実践

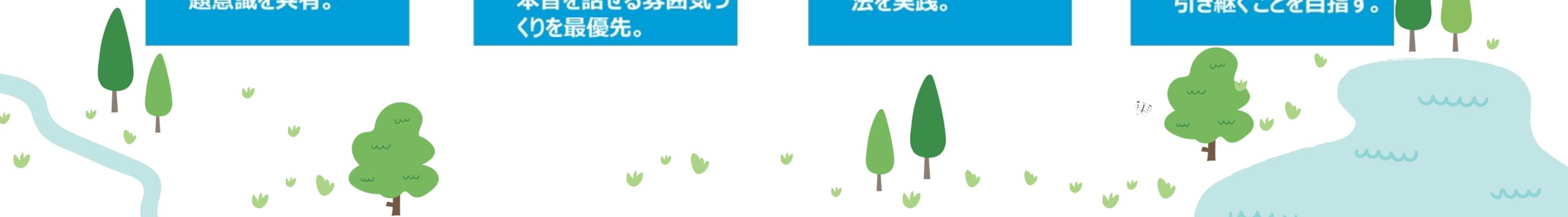
- 教員・職員・専門家に頼らず、学生が主体となって場の趣旨説明や進行役を担当。
- 一人ひとりの歩みを深く伺う「ライフヒストリーの聴取」という対話手法を実践。



STEP 4

住民との協働

- キノコの菌床設置などの協働作業を通じて、言葉だけではない信頼関係を構築。
- 活動を一過性にせず、将来の「住民主体の復興モデル」として地域へ引き継ぐことを目指す。



● 津島地区から見える里山の現状①

津島での対話の場



里山を深刻に 真剣に考える場所

- ・ 里山の有用性
- ・ 積極的な活用

でも実際は...

除染

人口減少

担い手不足

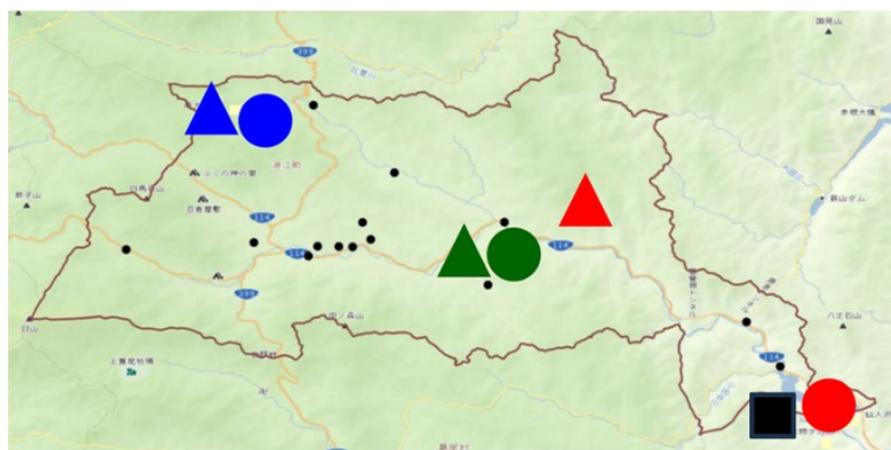
どうしたらいいかわからない...!



津島地区から見える里山の現状②

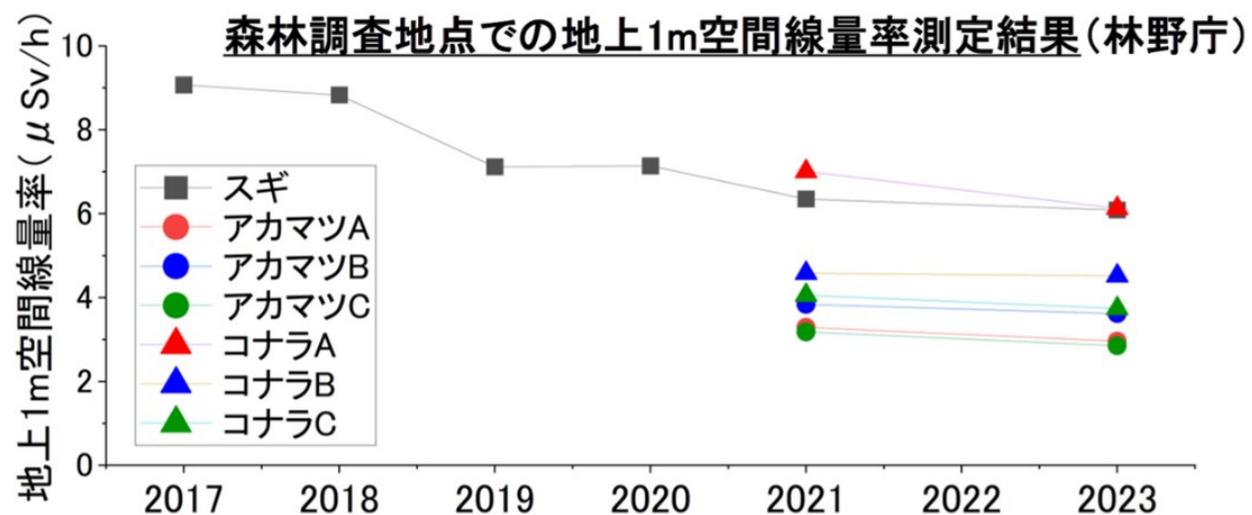
どう維持していくのか？

除染



- 林内の線量率は初期沈着状況を反映
- 線量率の低減速度はほぼ自然減衰と同じ
- 0.23 μ Sv/hを下回るのに90~120年は要する

出典:林野庁 令和5年度 森林内の放射性物質の分布調査結果について



人口減少

担い手不足



● 津島地区から見える里山の現状

そもそも、誰の里山？

人口減少 少子高齢化

→里山維持のため新しい人々が増える

誰の里山？

誰が、どう使っていた・使う里山？

そこにはどんな歴史があった？



● 津島地区から見える里山の現状

本当の里山の維持とは？

里山を介した

人のつながり、暮らし、文化、伝統芸能

すべてで里山



・何かひとつを守ればいいのか？・・・違う...!

・崩れ続けるコミュニティはどうしたらいい？

・人と人のつながりはどうする？

里山=自然環境だけではない

人と自然、人と人のつながりの場





ご清聴ありがとうございました！

